

開催の様子やお知らせなどを配信します。

津南未来会議は全五回の開催を予定しており、7月17日（水）に第三回を開催し、半分が終わりました。津南未来会議は、49名の住民が参加し、町のあるべき姿や現状、課題などについて活発な議論をしています。今回のニュースレターでは第一回～第三回までの議論を整理してご紹介します。

1 津南未来会議の趣旨

地域を元気にするために、住民の誇りである自然環境、歴史伝統文化、街並みなどを徹底的に活かしたよそとの交流（観光）をもっと活発にして農林業、小売業、サービス業など地域の生業を一層元気にするとともにあらたな事業を興すことを考える（観光地域づくり）ことが必要です。観光地域づくりを持続的に実践するきっかけと場づくり、そしてそれを担う組織とは？その役割とは？津南の未来を考える中で探ります。

●未来と現状を正しく認識して解決策を考える

津南町の“今”と“未来”を見据える。ギャップ＝課題を共有し、解決策を“みんなで”考えましょう

●多様な主体が参加する平場の議論の場

津南未来会議は、多様な住民と団体、多様な官と民が、立場や年齢などの垣根を越えて平場で意見を交わす場です。

2 未来会議参加者を募集し、49名が応募

「津南未来会議」への参加者を、町民及び町内の事業所に勤務・通学される方で15歳以上の方に募集したところ、応募予定を超える49名の応募がありました。49名の内訳は、男性32名、女性17名です。また年代別では20代が5名、30代18名、40代15名、50代7名、60代3名、70代1名です。

3 第1回 津南町の未来を拓くために取り組むこと

期日 2019年5月28日
時間 19:00～22:30
会場 津南町役場 3階 大会議室
出席者 47名

津南未来会議は事前にレポートを提出していただき、それをもとに議論を進めました。第一回では、参加者に「津南町の未来を拓くために私が取り組むこと」について、①私が目指す10年後の津南の姿、②その姿を実現するために私が取り組む活動、その姿を実現するにあたって行政に期待することの3つの項目でレポートを提出していただきました。



会議の冒頭に、参加者の自己紹介も兼ねて、レポートを元に2分程度のスピーチをしてもらいました。その後、グループワークで「津南の未来を拓くために我々が取り組むこと」というテーマで議論をしました。

未来を拓くために取り組むキーワードとしては、「つなぐ、交流する」「未来を拓く」「仲間と場づくり」があがりました。

開催の様子やお知らせなどを配信します。

4 第2回 現状の問題点を 正しく把握する

期日 2019年6月18日
時間 19:00~21:30
会場 津南町役場 3階 大会議室
出席者 44名

第二回は、津南の現状を正しく認識することを目的に議論しました。

津南の現状に対して感じる問題点は、それを解決することで「こうあって欲しい」と願う気持ちと表裏の関係です。現状をしっかりと捉えることは、取りも直さず未来を考えることにつながります。

10年後のあるべき姿にむけて、現状の問題点をできるだけ具体的に認識することが肝心です。現状が抽象的（例えば子供が少ない）ですと、課題も抽象的（例えば少子化が課題）となつて、解決策も抽象的（少子化対策として移住の促進、婚活など）になります。

現状が具体的（例えば〇〇地区の中学生以下の子供は20人で、このまま推移すると10年後には10人を切る）ですと、課題も具体的（例えば、〇〇地区の住民の廃集落に対する危機意識が薄く、何でも行政頼み。子供たちも集落に対する誇りが欠如）になり、解決策も具体的（〇〇地区の10年後を考える集会を立ち上げ、危機感を共有するとともに解決策を自ら考え、提起する。行政は〇〇地区に都会の子供たちとの交流の場をつくり、そこに森の幼稚園や都会の学校の林間学校、全寮制の中高一貫校、アーティストインレジデンス、古民家滞在施設を誘致する。）になります。

議論の結果、共通する現状認識として「住民のネガティブ意識」「稼げる地域になっていない」という2つのポイントが浮かび上がってきました。



5 第3回 現状の底辺に横たわる 課題はなにか？

期日 2019年7月17日
時間 19:00~21:30
会場 津南町役場 3階 大会議室
出席者 45名

第二回津南未来会議では、津南の現状についてさまざまな意見がありました。中でも、参加者の多くが指摘したのは、「住民のネガティブ思考・危機感の欠如・地域の方向性不明」と「稼げる地域づくりが不十分・仕事とお金」という2点でした。

そのような現状と向き合つて、様々な当事者の立場になって、「なんでネガティブ思考なのか？」「なんで稼げないのか？」と具体的に考え、その奥底に横たわる課題を探ることによって、はじめて実効性のある解決策が生まれてくるのだらうと考えます。

第三回では、参加者に「2つの現状の奥底に横たわる課題は何か？」について事前レポートを提出いただきました。グループワークで課題を掘り下げて考えてもらいました。その結果、津南町の6つの課題が浮かび上がってきました。



開催の様子やお知らせなどを配信します。

6

津南町の6つの課題

1 津南の現状や将来を考える機会や話し合う場がない。現状についての情報もない。

異なる世代や業種の人と意見交換の場がない／問題に気付いても行動しないし、行動できない／出る杭は打たれる雰囲気がある、意見を言ってもつぶされる／正式な場になるとモノが言えない雰囲気がある／行政の役割が不明確、地域と一緒に動いてもらう必要がある／津南病院の赤字問題などが情報として住民に伝わらない／住民も目の前のことで忙しく精いっぱい将来を考える余裕がないと言いつつしがち／日々なんとなくこなせていて、自分の代は大丈夫という意識の人が多い

2 津南の現状を知ろうとしない。地元津南に関心がない人がいる。

現状に満足し、危機感を持っていない人がいる／外の世界を知らない、外との交流がないから自地域の課題もつかめない／外から力や人材を受け入れる下地／子育て世代を受け入れる下地が十分でないことに気づいていない／津南を元気にするために「よそ者ばか者若者」を受け入れる意識が希薄

3 活動がバラバラで、せつかくのいい取り組みが繋がっていかない。

まち全体がつながる仕組みがない／まち全体をマネジメントする仕組みやまとめる組織がない／まち全体の方向性を語り、まとめるリーダーがいらない／まち全体のブランディングという発想がない／統一したPRや情報発信ができていない

4 津南を豊かにする稼げる地域にする気構えが不十分。

稼ぎ方を知らない、稼ぐのをあきらめている／稼ぐビジネスモデルがない／経済効果に関するデータがない、行政や商工会の取り組みに対する結果説明がない／新しいビジネスについて関心がない、企業誘致に消極的／優良企業や成功事例が共有できていない／失敗しても次があるというポジティブな発想がない／金儲けが悪いことという風潮がある、儲けるというのは津南のファン信者を増やすことだと認識していない／売価が低く抑えられている、低い公共施設料金が足を引っ張っている、結果的にそれが賃金を抑えている

5 地域内でお金を落とす仕組みがない。

顧客のニーズ把握など店主のビジネス意識が低い／農業などの付加価値が生み出されない、出荷しても利益が出ない／質を上げて単価を上げる工夫が足りない／地元の企業を知ろうとしない／業種を越えて連携する仕組みがない

6 自然環境や農業など津南が持つ固有の魅力を価値化する工夫と意欲が足りない。

津南が持つ力、魅力に気が付いていない／自然環境だけで稼げると思っている、日本一の豪雪を売りに変えていく発想がない／このような意欲を持った人材がすくない／ネガティブをチャンスととらえる発想がない

残りの二回の津南未来会議において、6つの課題についての解決策と、それを誰が担うのかについて、議論していただく予定です。5回の津南未来会議が終了した後、議論を整理しアクションプランとしてまとめて、提言します。

掲載情報について詳細を知りたい方は、津南町地域振興課DMO推進室までお気軽にお問合せください。

〒949-8292 中魚沼郡津南町大字下船渡戊585番地 地域振興課DMO推進室

電話：025-765-3115 ファックス：025-765-4625 メール：dmo-suishin@town.tsunan.niigata.jp